



莫毅撮影「チベット」



ら見てもらうのだ、という。  
 写真だけではなく、莫は自らおこした行動をもって人とかかわり、回り、自己表現をしているのである。しかし、莫は紀実写真からはみ出した写真家である。今の中国では、莫の写真はただ写真家個人の内面を表しているものであって、社会には役立たない無意味な写真だと見られている。つまり、評価も批判もなく、無視されているのである。それでも莫は写真を撮り続けている。莫の生きかたは孤独である。職はない。金はない。肩書も、街頭写真展以外の発表の場もない。長い間支えてきてくれた奥さんは別れたいと言いだしている。奥さんをとどめるすべもな

**自己確認の写真  
 陸の場合**

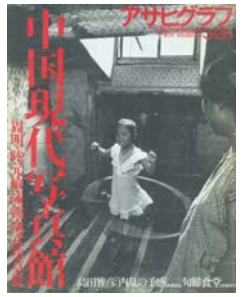
い。こういう莫にできることは、自分のなかにながった感情を写真で表現することだけなのである。  
 上海のフランス租界だったアパートの小さな屋根裏部屋に、陸元敏は奥さんと静かに暮らしている。陸は自分のことを虫さへ怖がる小心者だと言っている。  
 「街で何か出来事に遭うと、周明さんはすぐに首を突っ込むが、私は怖くて逃げてしまいます。だから、告発や生々しい写真は撮れません」  
 陸は自分のためにしか写真を撮らない写真家である。彼の写真には、

まるで時間が止まってしまったように、過去の革命も現在の市場経済の波も押し寄せてこない空間が広がっている。そして、革命後は消滅しているはずのブチブルジョアの雰囲気が残っている。  
 「私はある日、古いアルバムに自分と似ている父親の若いときの写真を見つけた。その写真を見て、人生は幻……。この世にあるものはいずれ消えてしまうと、つくづく思います」  
 そこで始めたのは、失われつつある時間と愛する家族や友人を写真にとどめることであった。自宅や友人の家で撮った写真は自家製のアルバムに綴じて、年をとったら奥さんと見ながら語り合うつもりだ、と言っている。  
 三十年前に撮った家族の記念写真、壁にうつすらと残っている子どものときの絵、貴、火を焚いていた暖炉、使い古した家具、兄弟で演奏した楽器など、生まれてからずっと住んでいる陸の古い家は、外で騒々しく進められている社会主義市場経済と無縁な静寂に包まれている。写真の舞台になる家は、昔も今もすべてを呑み込もうとする時代の激流から守ってくれた。その家は都市計画で壊される。陸は、家の隅々までを写真に撮りたいと淡々と語る。  
 陸の家を訪ねたとき、現像したフィルムと奥さんの刺繍入りの白いセーターが廊下に一緒に干してあって、パイオリンを弾く陸のそばでは、奥さんがピアノで伴奏していた。奥さんと写真、それが陸のすべてだと思

陸元敏撮影「洋館の人々」

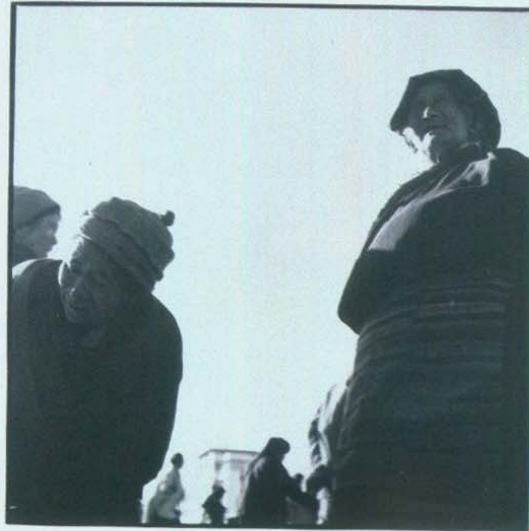


\*本号で紹介した中国の現代写真家5人の展覧会は以下の日程で開催されています。  
 「中国現代紀実写真家5人展」  
 ▼期間 3月19日(土)～30日(木) 午前10時～午後7時  
 24日は休館。30日は午後5時まで。▼場所 船橋市民ギャラリー(千葉県船橋市本町2-1-1) スクエア21ビル3階 ☎0474-420-2111 ▼入場料 300円



# チベット

A RECORD OF CONTEMPORARY CHINA BY 5 PHOTOGRAPHERS



撮影  
**莫毅**

1958年チベット生まれ。チベットサッカーチームの選手を引退後、天津の病院で広報課の仕事に就いたが、第2次天安門事件で職場を迫られた。チベットの広大な自然と住民を写した写真や、ごった返した天津の街の写真はみな自分の心境の表れだと言っている。また、サッカーもいまの写真も、自己表現の手段だと考えている。昨年、東京・日本橋のツァイト・フォトサロンで写真展「城市空間」を開催。

Mo Yi

